



令和3年度 東京都北区立堀船中学校

堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

令和4年2月 第11号

校長 阿久津 光生

〒114-0004

東京都北区堀船 2-23-20

Tel 03-3911-8817

<2学年の校外学習（都内巡り）を実施しました>

1月18日（火）に2学年の校外学習（都内巡り）を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、朝の混雑をできるだけ避けるため、集合時間を1時間遅らせました。2年生のみなさんがよく調べていて、同じ見学地に偏らず、様々な場所を回ることができて、大変有意義な都内巡りとなりました。

【主な見学場所】

・浅草寺・仲見世通り・雷門・浅草神社・国立科学博物館・科学技術館・スカイツリー・築地場外市場・国立近代美術館・東京大神宮・タバコと塩の博物館・東京タワー・芝公園・芝の東照宮・増上寺・江戸東京博物館・築地本願寺・聖路加国際病院・豊洲市場・皇居桜田門・小石川植物園・かっぱ橋道具街・東本願寺（台東区）・上野公園・すみだ水族館



<15日、土曜日授業・校内作品展を行いました>

1月15日の土曜日授業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、校内作品展において生徒と保護者の皆さまとの見学時間を極力分けるという趣旨で、授業開始時間を早めて実施いたしました。授業公開についても、直接教室に入ることは御遠慮いただき、別室からのリモート参観や、廊下からの参観といたしました。対策への御理解・御協力のもと57名の保護者の皆さまに御参観をいただき、ありがとうございました。



<東洋大学陸上競技部 長距離部門監督 酒井俊幸様の講演会をリモートで開催しました>

1月28日（金）13時30分より、学生駅伝界の名将、東洋大学陸上競技部長距離部門監督・酒井俊幸様の講演会をリモートで開催しました。当初は本校体育館で行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、酒井監督のいらっしゃる東洋大学川越キャンパスからGooglemeetで行いました。酒井監督は、御自身の経験から得た教訓や発見を、とても分かりやすく御説明くださいました。イメージが湧くだけでなく、大変示唆に富んだ内容でした。私も、酒井監督の指導の根幹にある、競技力だけではなく、人間としての成長を重視する姿勢に感銘を受けました。生徒のみなさんも、各教室で酒井監督の講演を真剣に聴き入っていました。リモートでありながら、JCOMや読売新聞の記者の方々が取材に来てくれました。酒井監督への注目度の高さを感じました。

<表彰>

【北区小中学校 書初め席書会】

☆金賞おめでとうございます。

1年 山田（悠）くん、浦辺さん、鳥居さん、犬塚さん

2年 小池さん、佐藤（麗）さん

3年 笠井くん、菅（妃）さん、菅（琴）さん、須田さん

★銀賞おめでとうございます。

1年 馬さん、前川さん、前橋くん、伊勢田さん、上村さん、木村（綺）さん、佐藤（陽）さん

2年 安藤（剛）くん、瀬川さん、渡邊さん、小泉くん、石井さん、高木さん、丸橋さん

3年 中嶋くん、伊勢田さん、原さん、村上（柊）くん、林（紗）さん

浮世絵に見る飛鳥山

右側の絵は、「古今東京名所 飛鳥山公園地王子製紙会社」です。歌川広重（三代）により明治16（1883）年に制作されたものです。三代歌川広重は、幕末に活躍した絵師・歌川広重の門下です。

この作品は、江戸時代の様子を描いたものと明治時代の様子を描いたものとで対になっています。どちらも同じ場所です。上の絵は、江戸時代の人々が飛鳥山の崖上から「かわらけ投げ」を楽しむ様子が描かれています。かわらけ投げは、厄よけなどの願いを掛けて、素焼きや日干しの土器の酒杯や皿を高い場所から投げる遊びです。高台にある花見の名所などでよく行われていました。

一方、二番目の絵は、明治となり、洋装の紳士やコウモリ傘をさす男性が崖下の煉瓦の工場を眺め見る情景が描かれています。文明開化の時代には、花見と共に、煙突から煙を吐き出す煉瓦の工場が新名所になっていたのです。

この工場こそが、明治時代の実業家である渋沢栄一の呼びかけで、明治8（1875）年に日本初の製紙工場として操業を開始した「抄紙会社」（後の王子製紙）です。工場は、三棟の総煉瓦造りの建築物でした。当時の東京には、本格的な西洋建築はまだほとんどなかったもので、西洋風の工場と、煙突からのぼる煙は、まさに文明開化の象徴として人々の目に映ったことでしょう。

明治16（1883）年には、飛鳥山の崖下に上野～熊谷間を走る鉄道が開通しました。現在、飛鳥山の崖際から東側（低地側）を臨むと、明治時代の人々が眺めた煉瓦の工場に代わって、JR京浜東北線・高崎線・新幹線の高架とタワーマンションのある景色が広がっています。



上下ともに飛鳥山博物館所蔵



現在の飛鳥山からの眺望

【次号から、近代日本医学の父・北里柴三郎を紹介します】

今から130年前、伝染病との闘いに挑み、多くの人々の命を救った北里柴三郎。彼は、前号まで1年半に渡って紹介してきた渋沢栄一と同じく、2024年からの新紙幣（千円札）の肖像に選定された人物です。

2019年より、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大が続いています。伝染病の制圧に多大な貢献をなした北里の生き方を、学校法人北里研究所北里柴三郎記念室をはじめ、関係大学・研究機関に御協力をいただきながら、調べていきたいと思っております。引き続きお読みいただければ幸いです。



ドイツ留学中の北里柴三郎【提供：学校法人北里研究所】